Course number		ber	U-LAS70 10	000	I SJ50									
Course title (and course title in English)	e へ IL	AS Se		vatic	生 - 森林から都市 ation of Wooden			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Global Environmental Studies Professor, KOBAYASHI HIROHIDE Graduate School of Global Environmental Studies Associate Professor, OCHIAI CHIHO Field Science Education and Research Center Senior Lecturer, SAKANOUE NAO				
Group	oup Seminars in Liberal Arts			and Sciences			lumber of credits		2		Number weekly time blo			
Class style	•	seminar (Face-to-face course))	Year/semes		ers 2025 · First		semester		Quota (Freshman)		(8)	
Target year		1st year students		Eli	Eligible stude		s For all majors		Da		ys and riods	Tue.5		
Classroom	4th floor 453,Research				Bldg. No3 (Main Campus)					Lan inst	anguage of Japanese		ese	
Keyword	Keyword 自然共生システム関連 / 森林・里山・都市 / 木材資源の活用 / 風土と木造建築 / 自然災害と木造建築													
[Overview and purpose of the course]														
わが国は優れた森林国でありながら国産木材の利活用は未だに高いとは言えない。一方、都市に おいても優れた木造文化を持ちながら、その継承が十分になされているとは言えない。このような 状況下、木との関わりを私たちは今後どのように再構築していくべきだろうか。本講義では様々な 事例を紹介しながら、森林や里山環境の在り方、日本の木材生産と森林の実態、地域に根ざした伝 統木造建築(風土建築)の維持継承、都市木造建築の可能性、木造建築と災害などを概観し、日本 の木文化再生について考える。 [Course objectives] わが国の森林とそれを取り巻く現状を体系的に理解する。さらに、木材資源を利用して成立して きた様々な形態の木文化について学び、その再生に向けた方向性を森林、里山、都市、建築、地域 コミュニティ、防災など多角的な視点から考察する。また野外実習を通して、学んだ内容と現場と の関連について理解する。														
[Course schedule and contents)]														
3名の教員が以下の講義を行う。 1.日本の森林・里山の現状、日本の林業と今後(2回、坂野上) 2.木文化としての建築(4回、小林) 3.木造建築と災害(4回、落合) 4.フィードバック(1回、全教員) 以上の講義に加え上賀茂試験地での1日の野外実習(4回分に相当、5月下旬-6月中旬頃の週末で調 整)を予定します。講義と実習で全15回分とします。 上賀茂試験地の往復交通費は自己負担とします(叡山電鉄出町柳~京都精華大学往復)。														
[Course requirements]														
None							_		Continue to I	LAST	- ミナ- :木文化	再生 - 森林	から都市へ(2)	

ILASセミナー :木文化再生 - 森林から都市へ(2)

[Evaluation methods and policy]

平常点及び課題レポートによる評価。詳しくは授業中に説明する。

[Textbooks]

プリント配布

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

講義受講後には必ず講義内容について総括して、メモを作成しておく必要がある。講義前には、 それ以前に受けた講義に関するこれらのメモに必ず目を通しておくこと。

[Other information (office hours, etc.)]

文系学生の受講も歓迎する。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

[Essential courses]